

4. 定点把握対象感染症患者報告状況（月報）

（1）過去5年間の報告状況

疾患名	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
性器クラミジア感染症	133	239	277	251	272
性器ヘルペスウイルス感染症	106	229	280	291	300
尖圭コンジローマ	58	50	55	58	86
淋菌感染症	19	29	40	52	52
性感染症報告数 小計	316	547	652	652	710

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	350	326	337	321	283
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	11	27	14	14	7
薬剤耐性緑膿菌感染症	5	5	1	1	1
薬剤耐性アシネトバクター感染症 ^{*)}	—	—	—		
薬剤耐性菌感染症報告数 小計	366	358	352	336	291

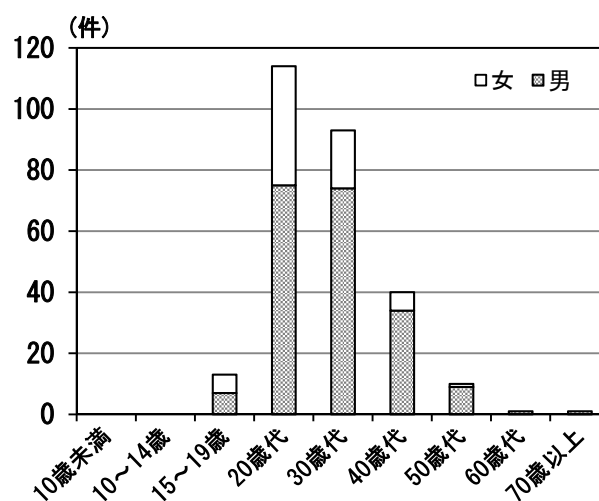
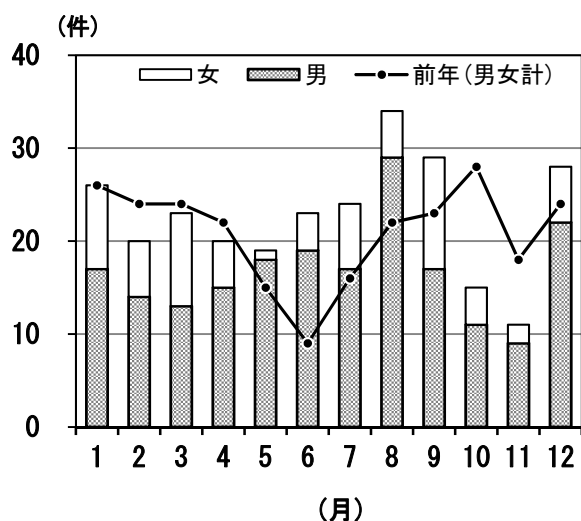
^{*)} 平成 26 年 9 月 19 日より全数把握疾患として追加された。

（2）性感染症患者報告状況

性感染症の総報告数は 710 件と、前年（652 件）からやや増加した。過去 5 年間では、平成 25 年に定点病院が一部変更されたことより単純に比較できないものの、平成 25 年以降、緩やかに増加している。男女別では、男性 375 件（前年 335 件）、女性 335 件（前年 317 件）と男性、女性とも前年に比べやや増加し、疾患別では前年同様、性器クラミジア感染症（38.3%）、性器ヘルペスウイルス感染症（42.3%）の割合が非常に多く、次いで尖圭コンジローマ（12.1%）、淋菌感染症（7.3%）の順に多かった。

① 性器クラミジア感染症

性器クラミジア感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数



年間報告数は272件と前年（251件）よりやや増加し、10～11月にやや報告数が少なかったものの季節的な特徴は見られず、年間を通じて報告された。男女別では男性201件（前年190件）、女性71件（前年61件）と男性、女性ともやや増加し、全体では男性（約74%）が多くを占めた。

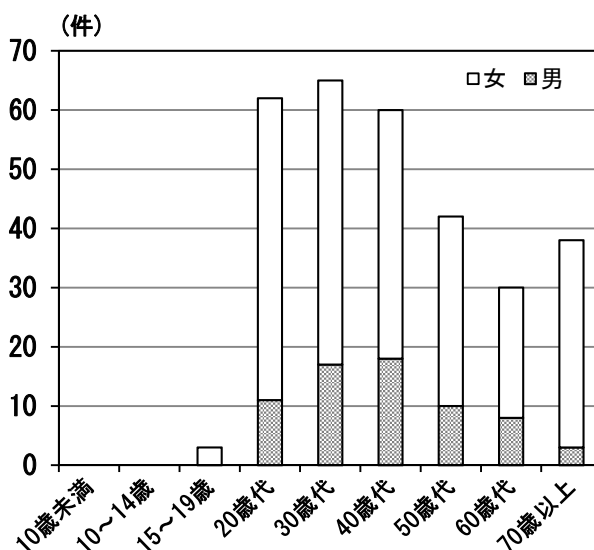
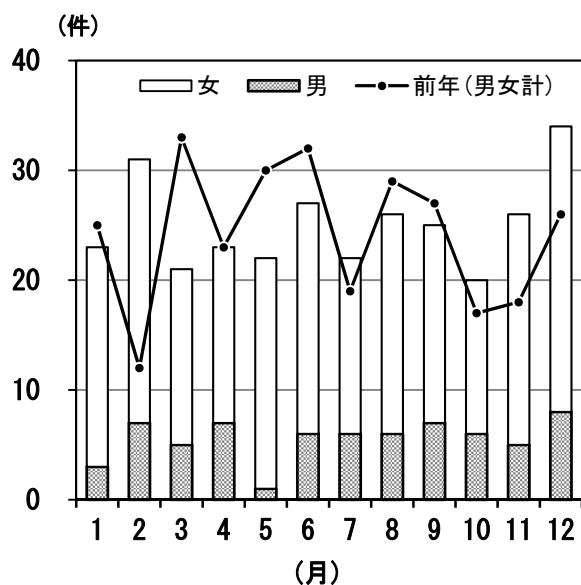
年齢別報告数では、10歳代4.8%、20歳代41.9%、30歳代34.2%、40歳代14.7%、50歳代以上4.4%と、20～40歳代からの報告が多かった。

② 性器ヘルペスウイルス感染症

年間報告数は300件（男性67件、女性233件）と、前年（291件：男性59件、女性232件）から横ばいのまま、月別報告数では季節的な特徴も見られず、年間を通じて報告された。男女別では男性の報告数がやや増加し、女性の報告数はほぼ同数であった。また性感染症全体では男性が女性より多く報告されているが、本疾患は女性が約78%を占めるなど、女性の割合が他の疾患に比べ高かった。

年齢別報告数は、10歳代1.0%、20歳代20.7%、30歳代21.7%、40歳代20.0%、50歳代14.0%、60歳代10.0%、70歳代以上12.6%と、20～40歳代がやや高かったものの、幅広い年齢層から報告された。また、60歳以上の高齢者からの報告数が22.7%と他の性感染症と比較して多い傾向が見られたが、潜伏していたウイルスによる再発の可能性も考えられる。

性器ヘルペスウイルス感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数

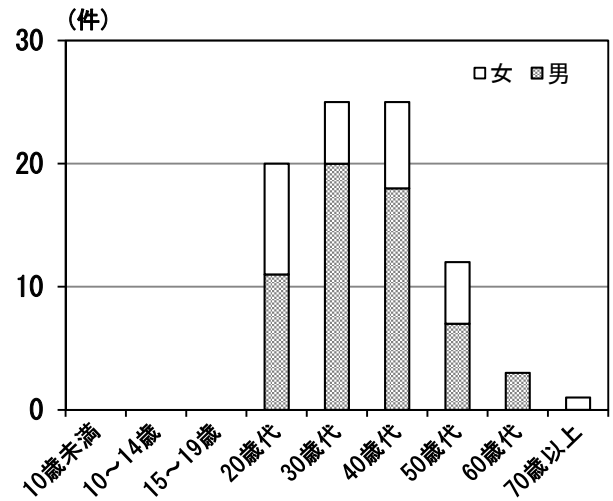
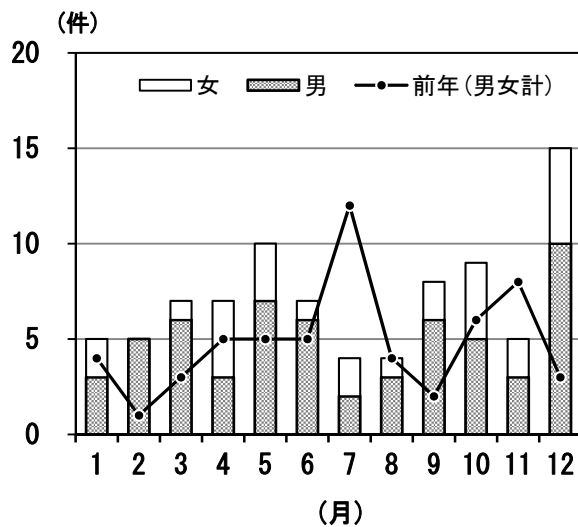


③ 尖圭コンジローマ

年間報告数は、平成24年以降、毎年50～60件で推移していたが、本年は86件（男性59件、女性27件）とやや増加した。男女別では性器クラミジアと同様に男性が多く、約69%を占めた。

年齢別報告数は、20歳代23.3%、30歳代29.1%、40歳代29.1%、50歳代14.0%、60歳以上4.5%と、他の年代に比べ20～40歳代からの報告が多く、全体の約82%を占めた。

尖圭コンジローマの月別患者報告数と年齢別患者報告数

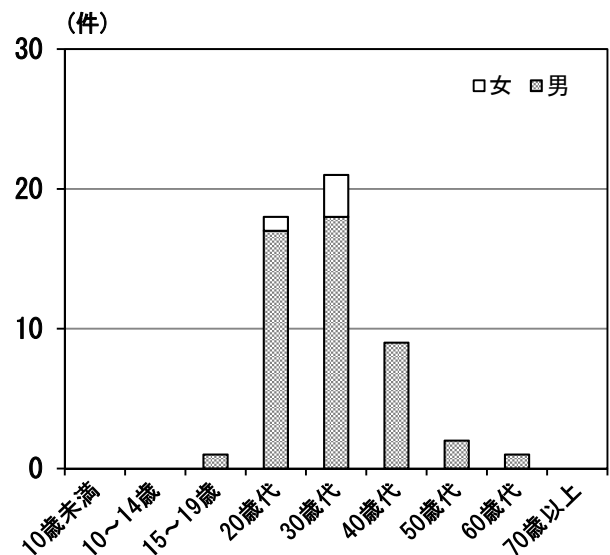
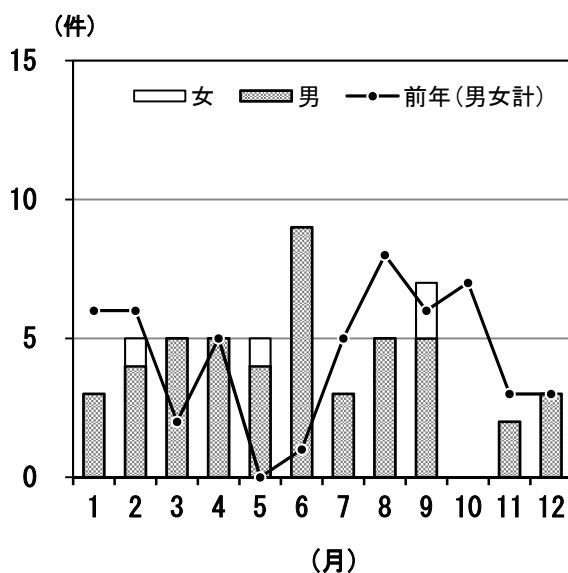


④ 淋菌感染症

年間報告数は、平成 24 年（19 件）から前年（52 件）まで 3 年連続で増加していたが、本年は前年と同じ 52 件であった。男女別では、男性 48 件、女性 4 件と性器クラミジア、尖圭コンジローマと同じく男性からの報告が多く、約 92% を占めた。

年齢別報告数は 10 歳代 1.9%、20 歳代 34.6%、30 歳代 40.4%、40 歳代 17.3%、50 歳代 3.8%、60 歳以上 2.0% であった。他の性感染症と同様に、20～40 歳代の割合が高く、全体の約 92% を占めた。

淋菌感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数



(3) 薬剤耐性菌感染症患者報告状況

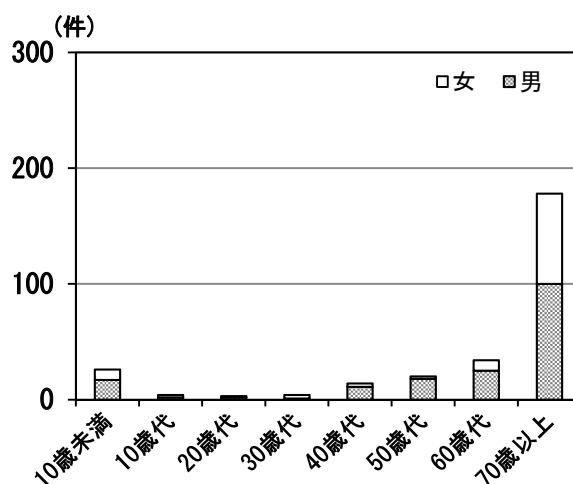
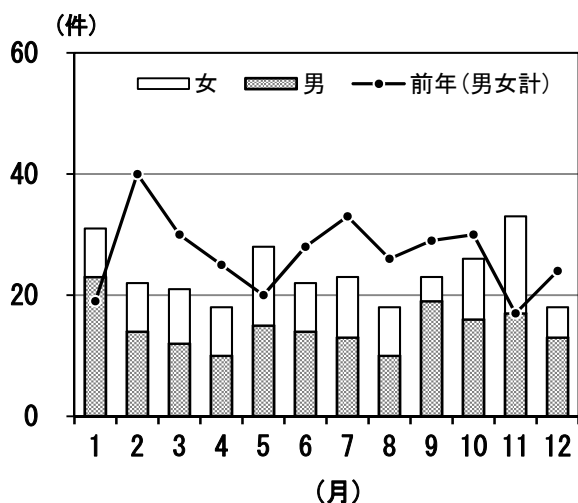
薬剤耐性菌感染症の総報告数は、平成 24 年以降大きな変化はなく毎年 350 件前後で推移していたが、本年は 291 件と前年（336 件）からやや減少した。疾患別の届出数においては例年同様、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の割合が大半（約 97%）を占めた。

① メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

年間報告数は 283 件（男性 176 件、女性 107 件）であり、前年（321 件）から減少した。過去 5 年間では、毎年 320～350 件で推移している。月別報告数から季節的な特徴は見られず、年間を通して報告された。

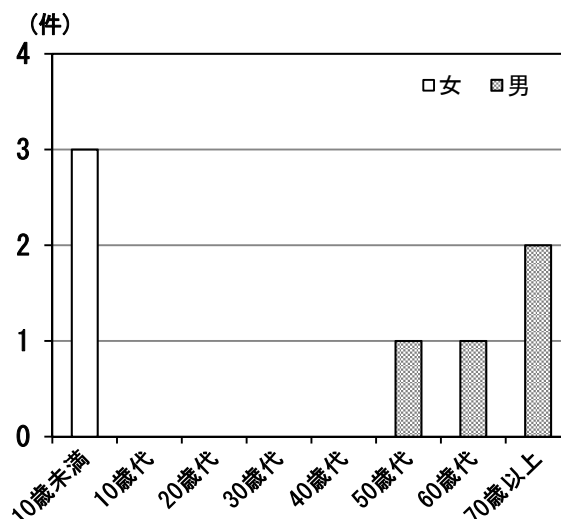
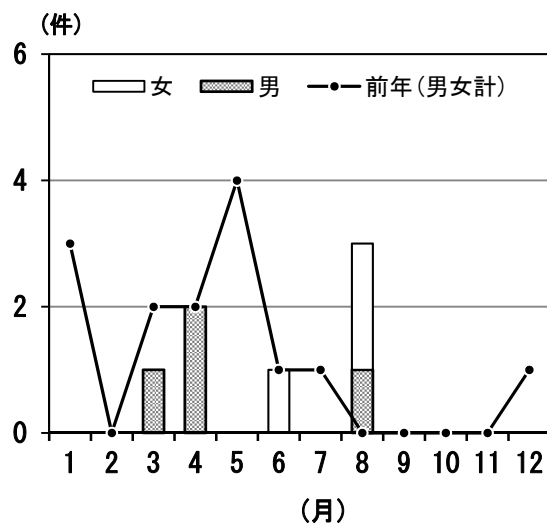
年齢別報告数は、10 歳未満 9.2%、10 歳代 1.4%、20 歳代 1.1%、30 歳代 1.4%、40 歳代 4.9%、50 歳代 7.1%、60 歳代 12.0%、70 歳以上 62.9%と、前年同様に 60 歳を超え年齢が高くなるにつれ大きく増加し、男女別でも、前年同様に男性の報告数が女性より多く報告された。

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数



② ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数



年間報告数は7件（男性4件、女性3件）と、前年（14件）の半数であった。過去5年間では、毎年10～30件で推移している。

年齢別報告数では、10歳未満42.9%、50歳代14.3%、60歳代14.3%、70歳以上28.5%と、10歳未満からの報告が最も多かった。

③ 薬剤耐性緑膿菌感染症

年間報告数は1件（男性、70歳以上）であった。過去5年では、毎年5件以内の届出数で推移している。

薬剤耐性緑膿菌感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数

